



# 学校のトイレの例 改修事例 2014



もともとタイルが貼ってあった腰壁部分や小便器の床に、抗ウイルス性や抗菌性、防臭性の高い内装用大型防汚陶板を採用。陶器ならではの防汚性と素材が持つ防臭性で、臭いが抑えられる効果がある。同時に清掃性もアップ。



洗面コーナーが混雑しないよう、1,600mmの幅に3連設置できるコンパクトな洗面器を採用。水栓は清掃性のよい壁付きの自動水栓。



校舎も講堂も、すべてのブースの便器には温水洗浄便座で擬音装置が付いている。ブース内は広々。



吉富小学校は、福岡県の東端に位置する吉富町にある。周囲は豊かな自然に恵まれている。

**抗菌性の高い床や壁により  
衛生面と清掃性を強化**  
吉富小学校は町で唯一の小学校です。「子どもたちのために」と強い思いを込めて町が改修したトイレを紹介します。

**感染の心配から  
素材にこだわって**

吉富小学校は、平成22年度に耐震化工事が済み、25年度にトイレ改修を施工。講堂(体育館)、職員トイレなどを含めたすべてのトイレを改修しました。

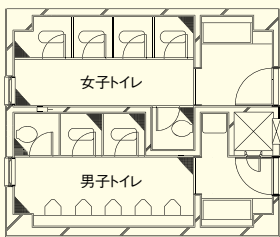
吉富町唯一の小学校であることから、町としての思い入れもひとしお。トイレの改修にもさまざまなこだわりが見られます。家庭トイレの洋式化に伴い、学校の大便器は全洋式化。温水洗浄便座、自動水栓を導入。特筆すべきは、壁やおだれ石です。どのトイレにも抗ウイルス性や抗菌性、防臭性の高い内装用大型防汚陶板を採用しました。

「築28年の建物で、トイレの臭いもひどかった。学校の場合、感染の問題もあります。せっかく改修するならば、子どもたちのことを考えた素材にしました」(吉富町教育委員会)

見た目に加え、機能面でも清潔さを追求したトイレに、子どもたちは大喜び。「トイレにずっといたくなった」という子もいるほどです。

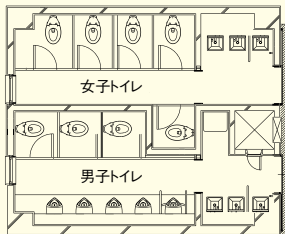


教室棟(児童用)トイレの入口。廊下とトイレ内の床の色を揃えているため、改修した部分と既存部分とがよくなじんでいる。

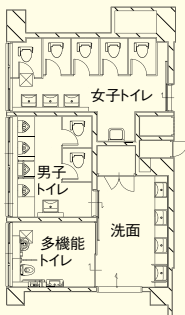


教室棟  
トイレ

～改修前～



～改修後～



講堂  
トイレ

～改修後～



講堂の多機能トイレと男子トイレの入口。窓が大きく取られているので明るい光が差し込む。



独立した鏡が見やすい手洗い。吐水口空間が広く保てる自動水栓を採用。



擬音装置を内蔵したリモコン洗浄ボタンを独立させ、さらに節水に配慮。



便器とリモコンは使いやすい位置関係に。



併設された給食センター内の給食従事者専用トイレも、このとき一緒に改修された。コンパクトな手洗いや器が設置されている。

**D A T A**

- 竣工年月 / 2014年1月
- 所在地 / 福岡県筑上郡吉富町  
大字広津665番地1
- 児童数 / 413名(2013年)
- 施主 / 福岡県吉富町

## トイレ改修で 心もきれいに

「当初は男子の小便器もなくして、すべてブースにしようという案も出ていました。ただ、それでは休み時間中に人数がはけないので、やはり小便器を入れてもらうことにしました。全体としては、洋式化によって便器の数が減りましたが、特に問題は生じていません」と吉富小学校の石博幸教頭先生(取材当時)。「これまでは、入学説明会で『和式便器を使う練習をしておいてください』とお願いしていましたが、もうその必要もなくなりましたね」と目を細めます。

同校では、トイレがきれいになったことをきっかけに、子どもたちの掃除に対するイメージも変えていこうとしています。「かつて、トイレ掃除というと、まるで罰のような悪いイメージがあった。でも今子どもたちは喜んでトイレ掃除をしている。これを機に、『掃除をすると心がきれいになる』というところまで教えていきたいですね。これですさらに掃除への意欲が出てくると思っています」(中村主幹教諭)